

No. 47

2000

11月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
富田隆仁
印刷
下市田・キタバヤシ印刷

7月29日「萩の里まつり」の大賑わい

(関連記事は3面に)



「文化祭り 敬老会」

10月14日～15日

(関連記事は5・7面に)



▲
舞台でのグループ発表の
合い間に、軽い運動を楽し
む皆さん。

◀同時開催した
「ぐるりウォーキング」で
松岡城跡を学習する参加者
たち。

区の情勢について

区長 富田隆仁

第四十七号発
刊に当たり区の
情勢を報告致し
ます。

先頃の、文化
祭・敬老会には
区民皆様の大勢
の参加を頂き盛
大に行う事が出
来ました。厚く
御礼を申し上げ
ます。二十一世
紀へしっかりと

つなぐ事が出来ました。

さて高森町では、近年農
振地除外の申請が年五十件
以上となりました。當下市
田区内でも例外でなく、農
業従事者の高齢化にともな
い農地の転用申請が目につ
く様になりました。アパー
ト・分譲住宅等の申請が多
く、区民とのかかわりにつ
いて心配される事でもあり、
種々協議の結果、土地利用
委員会を設け、審議し共存
共栄の実を上げるべく努力
する事になりました。

要項(一)アパート、(二)工場
並びに商店、(三)千平方米以
上の分譲住宅等について申
請者の意向を区民の立場か
ら検討し、悔いのない様に
して行く目的を持します。
一例として、アパート入
居者の方々に申請者(オー

ナー)としての協力へのお
願い、①特殊区費公益負担
の集金及び納金について、
②道路作業・河川清掃への
協力、③分別集荷への協力、
④区内の主なイベントへの
参加、⑤生活環境向上への
相互協力等であり、覚書と
して土地利用委員会へ提出
して頂く、又分譲住宅入居
の方々には次の点を特にお
願いして協力して頂く。①
常会隣組への加入・区への
協力、②区の義務等に関す
る規程(区費・区有林への
義務)等協力を定めてあり、
お願いをして参ります。又
大切な事は、下市田区は町
の下端であり、上段の開発
と関係が深く、特に排水等
については慎重に検討を加
えて問題の生ずる事のない
様にしなくてはなりません。

又交通安全の観点から、
駐車スペースに無理がない
か、視角の点から問題が生
ずる事がないか等検討して
参ります。土地利用委員会
が発足して日が浅く、区民
皆様の御協力をお願い致し
ます。

又独立家庭をなくす取組
みについて、区内にも独立
家庭の方がおられます。特
に常会加入又は常会新設へ
の働きかけをして参り、道

路・河川作業等、その他近
隣の方々との交流、青少年
健全育成等、協力して生活
環境を高めて参る事が大切
でありますので、大きな課
題として参ります。協力を
お願い致します。以上

下市田区委員
スポーツ大会開催

林務委員 佐藤清司

十月二十二日、天気晴。
下市田区委員の親睦グラ
ンドゴルフ大会が、区民広場
で行われました。多忙の中
四十人の参加があり、二人
一組でプレーを行い、和や
かな一時を過ごしました。
林務委員が設定した山あり
谷ありの難コースに挑戦し、
見事優勝の荣誉(賞金・賞
品なし)に輝いたのは、正
副区長ベアーの富田・塩沢
組でした。終了後、環境衛
生委員の設営で懇親会を行
い、散会となりました。

下市田区
備品使用料規定
(個人貸出の場合)

椅子(1脚)1回 100円
座卓(1脚)1回 100円
附 則
この規定は
平成12年8月8日施行

平成12年度 下市田区一般会計前半期決算報告書

(自平成12年4月1日～至平成12年9月30日)

収入金計 23,856,808円 支出金計 9,107,626円 差引残高 14,749,182円

Ⅰ. 【収入金の部】

項 目	予算現額	決算収入額	比較(予算・決算)
1. 区 費	15,020,000	7,280,195	- 7,739,805
2. 繰 入 金	1,396,000	0	- 1,396,000
3. 町 支 出 金	3,550,000	2,466,025	- 1,083,975
4. 財 産 収 入	1,680,000	153,350	- 1,526,650
5. 寄 付 金	550,000	0	- 550,000
6. 消 防 義 務 金	2,600,000	2,580,000	- 20,000
7. 諸 収 入 金	350,000	288,662	- 61,338
8. 前 期 繰 越 金	6,500,000	11,088,576	+ 4,588,576
収 入 合 計	31,646,000	23,856,808	- 7,789,192

Ⅱ. 【支出金の部】

(単位 円)

項 目	予算現額	決算支出額	比較(予算・決算)
1. 総 務 費	12,235,000	3,571,692	- 8,663,308
2. 環 境 衛 生 費	977,000	8,347	- 968,653
3. 林 務 費	1,020,000	85,140	- 934,860
4. 土 木 費	2,670,000	414,200	- 2,255,800
5. 水 利 費	2,640,000	1,104,182	- 1,535,818
6. 消 防 費	2,640,000	2,114,065	- 525,935
7. 公 民 館 費	3,010,000	1,510,000	- 1,500,000
8. 予 備 費	6,454,000	300,000	- 6,154,000
支 出 合 計	31,646,000	9,107,626	- 22,538,374

平成12年度 高森町公民館下市田支館 中間決算報告書

(自平成12年4月1日～至平成12年10月2日)

既収入額 3,484,593円 既支出額 2,326,924円 残 高 1,157,669円 (J Aみなみ信州預金 1,157,669円)

1. 収入の部

科 目	予 算 額	既 収 入 額
1. 繰 越 金	230,000	345,914
2. 繰 入 金	3,010,000	1,510,000
3. 補 助 金	900,000	1,610,500
4. 雑 収 入	1,000	18,179
合 計	4,141,000	3,484,593

2. 支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	既 支 出 額
1. 総 務 費	2,048,000	1,268,810
2. 教 養 部 費	1,192,000	549,012
3. 体 育 部 費	473,000	343,043
4. 視 聴 覚 部 費	278,000	116,059
5. 図 書 部 費	102,000	50,000
6. 予 備 費	48,000	0
合 計	4,141,000	2,326,924

委員会活動報告

土木委員長 上 沼 俊 彦

日頃は、区民の皆様方には、春秋の里道作り等大変御世話になって居ります。委員の仕事は、地区計画に基づいて行う道路維持改良、又安全施設舗装工事が主な仕事であります。

今年度の主な仕事は、改良工事で羽根線他四件、維持工事でポルカ前工事他十一件、安全施設工事で新井堤フェンス工事他七件、舗装工事では一本杉線他五件、地元施行及び緊急対策工事七件と多くの工事が計画され、地権者始め関係者の御協力御理解により計画通りに施行完了する事が出来ました。

県単事業で、ふる里農道・ビーワン信号機設置、又国道歩道工事が始まりました。でも区民の道路整備はまだ遅れています。

今後は、区民の皆様方の土木事業に御理解御協力賜り、区民道路の整備が進みます様御願い申し上げ、委員会報告と致します。

秋の里祭りが開催されるようになって、今回で十八回目になる。当日は好天に恵まれ、祭りに参加された子どもから老人までおよそ五百名を超える区民の参加が有り、盛大に開催する事ができました。

区民の参加は毎年増えて来ています。催事の中では一部変更され、下市田地区からの通園児のいる吉田河原保育園も参加して頂くことになり、下市田保育園の子ども達との参加と合わせて、大変華やぐものとなりました。鼓蝶の舞・キッズソーラン踊りが行われ、拍手喝采を得ました。下市田にもこんなに多くの子ども達がいたのかと驚き、見ていただけでも、楽しく微笑ましい光景でした。

現場説明をする土木委員長



夕涼みにお出かけて

今年も盛況でした

『秋の里祭り』

視聴覚部

の踊りには、各賞が付けられて、踊りの和を競いました。

一方各地区の青年会の出店の焼き鳥・焼きトウモロコシ・氷水・焼きソバ・綿菓子・五平餅・餃子・焼きいか・金魚すくい・くじ引き、等々、早くも八時過ぎには完売してしまう品物もありました。子ども達の花

火も、ケガ無く終え、午後六時半より九時半までの、三時間が、わずかに感じられる程でした。

下市田保育所から区民会館前の広場に場所を変えて三回目、芝生の葉が素足に心地良く感じられる場所は、子どもから老人まで楽しめる祭りが定着した感があります。子ども達が大人になった時、みんな楽しく秋の里祭りで踊った事が、なつかしい思い出の一ページとなる様、伝え続けたいと思います。

た。今後は、十代、二十代の若者も大勢参加できるような祭りになればと、願っております。

プログラム

- 太鼓 紅華
- 開会式
- 太鼓 オープニング
- 第一部 保育園児の賑わい
- 第二部 納涼盆踊り
- 第三部 高森音頭他発表会
- 第四部 子供花火大会
- 第五部 納涼盆踊り
- 閉会式

「各地区青年会の屋台」



「ボク達、頑張って踊ったよ!」



地元出身町議との懇談会

―教養部―

下市田区と公民館主催による「地元出身町議と区民との懇談会」は、去る六月十七日午後七時より、下市田区民会館に於いて行われました。

原昭夫、倉沢岩雄、伊奈川義公、久保田昌幸、熊谷元尋各議員の出席を頂き、公民館支館長、区長の挨拶のあと各議員より、議会活動報告をして頂きました。

倉沢岩雄議員より

南信州広域連合について
昨年四月一日に発足し、



南工区は今年中に工事に入り、北工区は用地買収の予定。

南ふる里農道湯ヶ洞線については移転家屋の建設中である。今年度の予算一億四千万円は返済金、埋蔵文化財発掘調査、道路建設などに当てる。

広域農道については今年度中に高森側は完成開通の予定。全面開通は平成十四年度である。

天竜川架橋については豊丘・喬木・高森で期成同盟会を結成し、橋の予定地をアピタ高森店と豊丘北とをつなぐ線に決めた。(国) 県の予算はまだ付いていない。

下市田一区北村の地区計画、臨時経済対策事業の中で市田停線から竜西線の道路拡幅をし、車のよけ合いができる様にした。

下市田駅前交差点、国道一五三号線を三車線に改良出来次第信号機を付ける。

久保田昌幸議員より

産業関係について
町はラン植物園を予算化する計画である。議会は三月の予算審査の中で凍結したが、六月までという事



で六月定例議会で答えを出す。六月十九日、二十日で審査の結論を出す為、皆様の御意見をお聞きして判断していきたい。

熊谷元尋議員より

総務文教関係について
毎年区民から出ている旧下市田学校の保存に町としては協力するが町の財産にはならない。

町では六月二十七日、二十八日頃に愛護会、区関係者を交えて研究会の第一回目を開く予定。広く一般の町民にこの価値の理解を得る事が必要である。保存だけではなく有効利用も考えて行くべきという意見もある。

る。

婦人ふる里事業の見直しについて、十年間行ってきたが今年一年かけ成果を振り返り、研究していく。

原昭夫議員より

民生費、衛生費、介護保険の状況等について
地域福祉基盤整備、交流施設に二億四千万円予算がある。

特養の入所措置額一人当たり六千円が八千円になる。高齢者福祉の安心介護支援金五千五百万円程予定して出しているのをやめ、介護審査を受けそれぞれの級に分けて支払っている。

介護保険の認定者は四月一日現在三百八十二名である。ショートステイは飯伊に九ヶ所あるが入所する人が少ない所もある。

質疑応答

Q 天龍社跡地に出来る特養で老人達の交流の場が出来ると聞いた、民営化すると言うがどのような形で行われるのか、利用するのに有料か。

A 一万四千㎡の広さで、特養の他に介護事業、デイサービス、ショートステイ等その他百三十名規模で陶芸・花作り・ゲートボール場を作る。入場は無料。民営とはJA長野会(佐久総合病院)が行う。

Q 通学路の危険箇所の点検をした。フタのない防火槽、道路の横断線等のチェックの用紙があるので検討してもらいたい。

A 地区計画で要望を出してもらいたい。

Q 児童館をぜひ欲しい。児童館と言うのは0歳児から高校生まで受入れていくのが本来ではないか。駅や役場周辺が子供達のたまり場になっている。

A 児童館ですべてが解決するとは思えないが、考えていく。

Q ランの施設が本場に町の活性化の為に良いのか。維持管理費が町民の負担にならないか。

A 民主主義により最後は多数決で決める。議会ですとめる事になっているので、今は結論は言えない。

Q 育成会を六年間やっているが、内容がマンネリ化しギリギリの予算でやっている。青少年育成のために予算を付けて欲しい。

A 町で研究委員会が開かれた処である。どのような形となるか話し合われる。

伊奈川義公議員より
建設予算について
予算は六億九千万円で去年より六千万円多い。

農免道路については

文化と交流を育んだ 文化祭り・敬老会

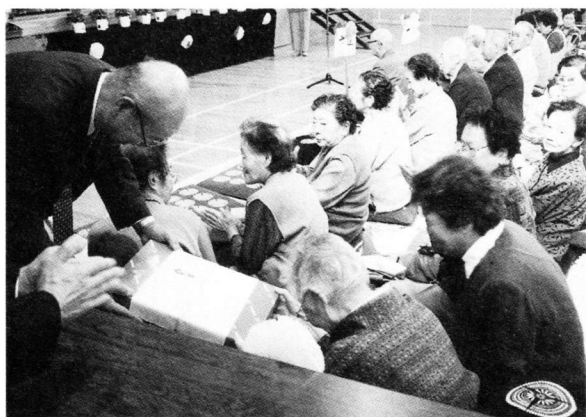
Ⅱ 下市田支館 Ⅱ

十月十四・十五日、「下市田文化祭り・敬老会」が下市田区民会館において晴天の内に開催され、区民をあげての行事に幕が上げられた。

作品展示会

屋外会場は、盆栽クラブの人達が手塩にかけた作品がずらりと並び、見る人の心を捕らえた。

屋内展示は二階の全室が展示場となり、ホールにも見事な油絵が展示された。



萩の間は、もともと茶室用に作られて居るが、そこに生花が並べられ、とても調和がとれ何とも言えない味わいを醸し出していた。

2ノ1号室では、史談会による下市田の歴史と文化の発表がされていて、我々の町の歴史を知る上でとても参考になった。他の三部屋では、書・絵画・水墨画・手芸・革作品・陶芸愛好家による芸術的作品が展示され、それらすべての作品を高く評価すると共に、その心を込めた作品を譲って欲しいという声が聞かれるほどであった。

下市田区の人達の熱心さその直向きな姿勢が素晴らしい作品を作りだしていて、来るべき二十一世紀へと希望をつなぐ文化展であった。

敬老会と

舞台発表

七十歳以上の招待者は昨年とほぼ同人

「下市田区文化まつり・敬老会」 下市田区・下市田公民館



その後表彰式に移り、九十歳以上二十三人、米寿九人、喜寿三十三人の方々に記念品が贈られた。高森町長の祝辞に続き、高齢者代表の田口正幸さんより謝辞があり舞台発表へ。

舞台発表は、大正琴で幕が開き、各クラブ共工夫をこらし日頃の稽古の成果が発揮されとても素晴らしい発表会になった。今年は大議員会・消防委員会の方々にも御協力いただき、とても洗練された歌声が披露された。さらに、初参加の高森ニューサウンズによるバンド演奏では、日本の情景演歌メドレーなどが演奏され懐かしそうに聞いてくれた。



た高齢者の方々の姿が印象的であった。発表の合間には手遊びで頭の体操をしたり、信濃の国を皆で歌い楽しい時間を過ごしました。

又、飛び入りでは、下市田老人ダンス教室の面々による社交ダンス、ジルバとルンバが披露され若々しくス

軽スポーツの集い

Ⅱ 体育部 Ⅱ

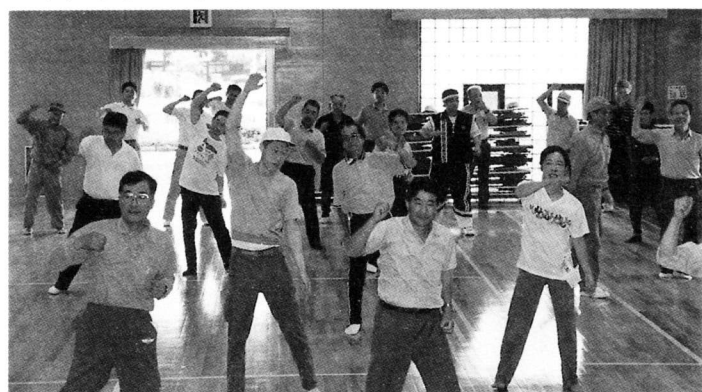
さわやかな汗を流し、日頃の運動不足とストレスを解消しましょうと、六月四日(日)に、下市田軽スポーツの集いが開催されました。

ウオーミングアップとして

- 一、ストレッチ
- 一、エアロビクス
- 一、カローリング
- 一、ボールカロッティー
- 一、グランドゴルフ
- 一、ラージボール卓球
- 一、輪投げ

誰にでも気軽、手軽にでき、大勢の方の参加をいただきました。

ゲーム終了後は懇親会が盛大にでき、心身ともに栄養補給の充実した一日となりました。



下市田のみなさん

こんにちは

一区出身 秋田敏郎

(名古屋市中区)

下市田を出てから約五十年。終戦の翌年学校を卒業。二男のため家におれないので外に出て行くわけですが、兄の復員が三年位遅れたので、家事農業の手伝い。下市田支所購買部に二年間お世話になったことと、青年団に入れてもらい、区の方々と交流を持ったことなどで深い愛着と懐かしい想いを故郷に持っております。

当時家を出ていくことは希望より不安の方が大きく、先ず日々の暮らしをどうするかで、故郷のことを思うこともない程夢中で、五十年はあっと云う間でした。後年、物・心に余裕ができて、良きに悪しきにつき、

最近話題の情報伝達一つをみても有線放送の充実している等、すべての面で都市より進んでいる下市田、誇りに思ってください。こんなことを思いながら七十歳の老夫婦、先ず健康をと頑張っております。できることならば、わが故郷、都会のようなコンクリートで固めた道路が多くならないことを祈っております。



年を重ねるにつれ更に郷土への想いは格別で、先日も小学校の大きな桜の下で昔を偲び、高台から下市田を眺めたこと、

樹木の叫び

六区 壬生 シズカ

出砂原の六地藏さまの地に二本の吉野桜の大樹が、春は爛漫の花を咲かせ、夏は木陰を作り、近隣の人たちの憩いの場となっていました。ところが、

害により、数年前に二本とも伐られて姿を消してしま

随想

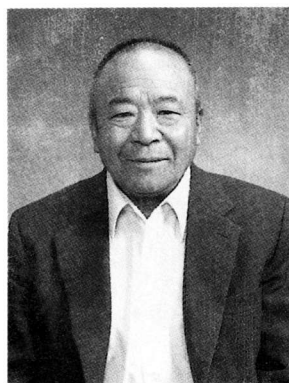
美しい彼岸花

私の家の下の土手は、彼岸花の集落地である。春の彼岸には寒い冬をじっと耐え、無数の球根から細長い葉を地上に出しているが、冬の寒さにも凍るようなことはありません。其の葉も暑い夏となると枯れて、球根だけになり、秋を迎える。秋の彼岸の頃になると真赤な彼岸花が咲く季節である。別名を曼珠沙華(マンジュシャゲ)で、秋の彼岸頃咲くので彼岸花ともいっている。原産地は中国で、古く

二区 北原 金二

日本に渡来したといわれている。

曼珠沙華とは「赤い花」という意の梵語である。田の畦道や、土手、墓地などに自生し、彼岸頃に咲くので、仏様臭いとか花に毒があるといわれて忌み嫌う人が



彼岸花と言うと二区の大土手は、郡下有数の大集落地です。福島さんが何回も草刈りを



保存したいと展示されているものでした。

赤松と言えば、京都の広隆寺の弥勒菩薩半跏像は赤松を用いたもので、六世紀半ばの作であり、かつては漆箱だったが、今は全身木肌が現れて、やわらかな松

管理すれば生き長らえる樹木の生命が、害虫や災害によって姿を消してしまうことを憂うのは私だけではないでしょう。

案外多い。これは私共日本人が勝手に決めたので、決してそんなことはない。花には責任はない。よく見ると実に美しい花で、秋の彼岸頃田の畦道、土手、道路脇に目立って咲いているのですぐわかる。

人には余り愛されず、自力で力強く生き抜き、雑草に負けず、秋の到来を知らせ、美しくまたさりげなく咲く彼岸花は私は大好きだ。

私も長生きをして、今後何回も観賞出来る事を祈念しています。

の材質が伺えます。奈良の法隆寺の百済観音像は、樟材の一木造りで飛鳥時代の作だそうです。

遠い昔の菩薩さま観音さまですが、今に至っても木の命は脈々と生き輝いて、私たちにさまざまな形と容貌で歴史を伝えてくれています。

大会へ向けて

小六 木下絵理(四区)

私は、五年生の春からミニバスケットを始めました。最初のころは、正直いって練習がめんどくさいし、大変だから、やめてしまいたいと思っていました。

だけど、一年間がんばってみると、毎週の練習が、とてもおもしろくて、楽しいです。

とくに、今までできなかったことや、にがてだった事ができるようになった時は、

とくに重点的にしている練習は、松川のチームなどがつかってくる、ゾーンディフェンスへの攻撃のしかた

たのしかった文化祭

中一 唐沢慎一郎(五区)

十月十三、十四に、中学校にはじめての文化祭がありました。どんなふうに行うかと楽しみでした。

文化祭のテーマは、『無限大ー私達の限らない可能性を未来へつなげようー』でした。

この文化祭のために、事前活動、展示品の制作、音楽会のための歌の練習、各委員での文化祭についての計画、準備などいろいろな活動を行ってきました。

そして、当日。体育館に整列をし、小原ヶ丘祭がはじまりました。開祭式が終わると、ス



遠くからのシュートも、重点的にする練習の中に入っています。

大会は、もう目の前へせまってきたいます。

私のチームの中には、戦うからには必ず勝ちたいと思ってる人もいるかもしれません。

でも、私はベストをつくせばそれだと思います。大会は、全員メンバーがそろうといいです。

テージ発表で、研究・体験発表、美術部の発表、吹奏楽部の発表、選択体育の三年生の発表、展示見学、演劇部の発表、自主活動など、盛りだくさんの発表や活動がありました。

二日目は、音楽会が行われました。まず全校で歌い、そして、各クラスの発表になりました。どのクラスも、思っていた以上にうまくて

小学校の時の音楽会とは、ぜんぜんちがいました。クラスの発表が終わるとまた全校で歌いました。

音楽会が終わると、閉会式でした。とても感動しました。そして、小原ヶ丘祭

下市田ぐるりウォーキング

Ⅱ 体育部 Ⅱ

十月十五日、体育部担当のぐるりウォーキングは、公民館文化祭の一環として行われました。今年は区民会館を出発して、間ヶ沢川沿いを上段へ、自然愛護会員により草、花、木などの植物の説明を聞きながらウォーキング。

約五十分ほどで松岡城趾へ、史談会員により説明を受けました。松岡氏は千年ほど前、鎌倉幕府の源氏に追われて戦いに敗れた陸奥の豪族であった。松岡城は標高約五百五十米の段丘の突端を利用して築かれ、本丸、二の丸、三の丸をほぼ一直線上に配置する連郭式の平山城である。

は終わりました。

初めての文化祭は、とてもおもしろく、二日間がみじかく感じられました。これは、いっしょうけんめいがんばったからだと思えます。来年の文化祭が楽しみです。



戦国時代に入ると、武田信玄、織田信長、徳川氏の支配下になる。松岡一族の中には弓馬の武芸に優れた者が多く居たという。

約一時間の説明を受けた後出発し、農業試験場横を経由して、時の駅に到着。館長さんより富本銭、下市田区の歴史などの説明を受けました。

最後に、大勢の参加者の皆様により有意義な下市田ぐるりウォーキングが出来たことに感謝します。

グループ紹介

元氣いっぱい 五区若妻会

五区 熊谷ひでみ

慣れ親しんだ土地を離れ縁があつてこの地へ嫁いで来た頃というのは、夢や希望もありましたが、やはり不安な事の方が多かったように思います。

「若妻会」という存在があることを知り、でも、どんな方々がいらっしゃるのかもわからず、やはり不安でした。人に慣れるまでは、

新しい土地に来た者にとつて、友達が身近にいないことは寂しいことです。その上、初めての妊娠・出産・

自然環境保全に取り組む四区

四区部落長 玉置 俊通

当たり前と言えは当たり前、それをやっている四区。

・発端は一昨年。巡礼沢沿いの大洞線、途中にS字カーブがある。

「ゴミを捨てないように」との立て看板が三本たつ。

おかげで現在はクリーンを保つ。これを契機にゴミ情報が絶えず寄せられるようになり「自分たちの地域は自分たちで守る」という雰囲気が高まる。

そこで、ゴミの日を機

育児というわからない事ばかりで暗い気持ちになります。やはり、まずは毎日をイキイキと過ごし、楽しく子育てができたらと考えます。

そこで出てくるのが『若妻会』なのです。先輩の話を聞いたり、わからない事や悩んでいる事を一緒に考えてくれる、たのしい集団です。

互い様／と思ってくれるので参加もしやすいです。しかし、小さい子どものいる集団なので全員そろふことは難しいところです。パワフルな若妻会を宜しくお願いします。

・四区では、生活センターでの飲食のあとの「残飯などは全部持ち帰る」ということにした。いまだに満杯だったビン類用コンテナも、今ではその役割を終わっている。

・分別収集は、環境衛生委員、常会長、部落四役で実施。量が増え繁雑となったため、組長も手伝い。年度途中からにもかかわらず積極的なご奉仕。税金常会などで分別についての自主的学習会も頻

繁になる。



役割を終えたコンテナたち



めざましいインターネット・パソコン等の普及により、あらゆるものを画面で吸収する時代となりました。

一昔前までは知識・娯楽・教養等書物に求めたものです。

良い悪いでなくて、こういった活字はなれの流れて仕方ないことでしょうか。

伝統ある区の蔵書もそんな次第で利用に大きな変化が見られるようになっていきました。

図書の貸出

=図書部=

以前は盛んに貸し出しがなされたと聞いています。

当部でも月一回十五日を貸し出し定例日として部員が出役して貸し出しのお手伝いをしてきました。

したが、本はなれの現実に抗しきれず、最近では利用者が零を数えることが多くなり残念ながら貸し出し日の設定を廃止することに決定となりました。

折角購入した本ですので一人でも多くの方に利用してもらおうと考えました。

今年も又、市田柿の里に最もふさわしい季節がやって来た。その自然、その風情のある環境の中で暮らすことに感謝したい。こうしたすばらしい環境の中に住む子供達であっても、その心は必ずしも満たされておらず、問題なしとは言えないのが現実のようだ。

難しいことは別として、家庭を始め地域の大人達が、子供達に語りかけ、問いかけることをしたい。区報もその一助となれればと思う。

編集後記

いつでも大勢の人の目につき気軽に利用していただくという事で区民会館玄関ホールに図書コーナーを二ヶ所設けました。書架を二つ用意して、去年までの新購入書を約二百冊程並べました。区民皆様のたいなる御利用をお待ちしています。

